

WHAT IS CLAIMED IS:

1. スネアワイヤの先端部がループ状に保持する保持機構を備えた環状先端部を有する略筒形状のキャップと、

このキャップを内視鏡の先端部に取り付ける取着部とを具備する内視鏡用粘膜  
5 切除具であって、

上記保持機構は、キャップの先端縁近傍に設けられ互いに周方向に離間された複数の係止部を有し、各係止部はスネアワイヤを間に保持する係止片と、対応部とを有する内視鏡用粘膜切除具。

2. 上記係止片と対応部とは、スネアワイヤを弾性的に挟持する請求項 1 に  
10 記載の内視鏡用粘膜切除具。

3. 前記キャップは、前記環状先端部を構成する先端部を有する筒状の壁と、この壁の先端部から内方に突設された内側フランジとを有し、前記係止片の各々は、前記環状先端部に周方向に離間し、周方向とは角度を有して形成された 1 対の縦て切れ目により、対応部と区分されて、形成されている請求項 1 に記載の内  
15 視鏡用粘膜切除具。

4. 前記各対の縦切れ目は、環状先端部の先端から基端まで延びるように形成されていることを特徴とする請求項 3 に記載の内視鏡用粘膜切除具。

5. 前記内側フランジは、周方向に延びた複数の横切れ目を有し、各横切れ目の両端から各対の縦切れ目が前記筒状の壁へと延びている請求項 3 に記載の内視  
20 鏡用粘膜切除具。

6. 前記環状先端部は、前記内側フランジと前記筒状の壁との間に、周方向に延びた複数の横切れ目を有し、各横切れ目の両端から各対の縦切れ目が前記筒状の壁へと延びている請求項 3 に記載の内視鏡用粘膜切除具。

7. 前記係合片は、対応部に対して環状先端部の位置側に回動可能であり、回  
25 動されたときに、これの外面と対応部の一面との間で、前記スネアワイヤを挟持する請求項 1 に記載の内視鏡用粘膜切除具。

8. 前記係合片は、弾性的に変形されて回動され、前記スネアワイヤは、係合片の弾性復帰力により、前記対応部に押圧される請求項 4 に記載の内視鏡用粘膜切除具。

9. 前記対応部は、筒状の壁から内方に突設された鰐を有し、前記係止片は、前記内側フランジに形成された切欠部により互いに分離された分離部を有し、これら鰐と分離部との間に、スネアワイヤが支持される請求項4に記載の内視鏡用粘膜切除具。

5        10. 前記係合片と対応部とは、環状先端部の周方向に交互に配置されている請求項1に記載の内視鏡用粘膜切除具。

11. 前記スネアワイヤが中に挿入されたスネアシースと、

10        先端側に開口を有し、この開口が上記キャップの内側と連通し、上記キャップを内視鏡に取着した際に内視鏡挿入部の外に配置され、スネアワイヤが中に挿入されたスネアシースを挿通するための軟性チューブと、

この軟性チューブの基端部付近に設けられ、スネアシースを解放可能に固定する固定手段とをさらに具備する請求項1に記載の内視鏡用粘膜切除具。

15        12. 略筒形状のキャップと、このキャップを内視鏡の先端部に取り付ける取着部と、先端開口が上記キャップの内側と連通し、上記キャップを内視鏡に取着した際に内視鏡挿入部の外に配置され、高周波スネアのスネアシースを挿通するための軟性チューブとを備え、上記軟性チューブを通じて上記キャップ内に挿入した高周波スネアのスネアワイヤの先端部を上記キャップ内に広げて配置するようにした内視鏡用粘膜切除具であって、

20        上記軟性チューブの基端部付近に、上記高周波スネアのスネアシースを解放可能に固定する固定手段が設けられている内視鏡用粘膜切除具。